

**第 3 回検討委員会の振り返り  
ごみ処理施設整備検討委員会  
〔バイオマス資源化センターみとよ視察〕**

**第 4 回四国中央市ごみ処理施設整備検討委員会  
令和5年11月 6 日**

# 概要

■ 2023年8月23日（水）13:00～14:20

バイオマス資源化センターみとよを視察

委員10名中8名が参加

高橋真委員長・高橋誠副委員長・八鍬浩委員・原田泰樹委員・石川大朗委員  
下司早智子委員・北村賢二委員・村上智子委員  
苅田耕一委員（8月30日視察）

	内容
名称	バイオマス資源化センターみとよ
所在地	香川県三豊市山本町神田30番地1
敷地面積	約10,000m <sup>2</sup>
竣工	平成29年3月31日
運営期間	平成29年4月1日から20年間
施設規模	43.3t/日
処理方式	トンネルコンポスト方式 バイオトンネル 6m×35m×5mH: 6本 バイオフィルター約170m <sup>2</sup> : 4基



# 視察後の意見内容

## 【市民に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	石川委員	市民の負担が少ないという印象	当市においても、分別の変更なく対応できるため、トンネルコンポストの採用による新たな市民負担は発生しない。
2	原田委員	ごみ処理施設の建設は、かなりの風評被害がでる。市のほうでそれを払しょくするのは難しい「近くに建設するなという声が出ています」	建設候補地の地域には丁寧な説明が必要である。
3	原田委員	広域化の深掘りがどうなのか、住民に説明するうえで重要なのではないかと。	処理方法決定後、市報等で決定の経緯などを特集し、理解を深める。

# 視察後の意見内容

## 【環境に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	高橋副委員長	リサイクル率が当市は低い、コンポストはリサイクル率の上で重要（三豊62.3%、全国が約20%、当市10%）	トンネルコンポストを採用した場合、50%程度への引き上げが見込まれる。
2	下司委員	トンネルコンポストは脱炭素、資源化率において問題なさそう。（良い効果が期待できる）	

## 【災害に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	原田委員	災害廃棄物は処理できず、三豊市では市外の民間事業者処理委託を計画しているということが課題だと感じた。仮置き場の設置も大変である。	災害廃棄物については、どの処理方法を採用しても、仮置き場を設置し、基本的には民間処理になる部分が多い。当市としては他自治体との連携や、市内外の業者との連携を構築し、災害廃棄物に対応できる体制を整える。
2	下司委員	災害時、（処理はできないが）他の所に頼ることができることが分かった。	

# 視察後の意見内容

## 【臭気（バイオフィルター）に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	高橋委員長	木屑の脱臭装置は正直ちょっと臭うので立地は選ぶのでは	従来の廃棄物処理施設と比べると、臭いの強さは低く、バイオフィルターから数m離れると臭いはしない。 ただし、施設を運営する上では、定期的な臭気測定を実施・公表することが不安の解消につながる。
2	下司委員	臭いについて、「こんな臭いなのか」「クリーンな感じがした」	
3	北村委員	臭いについて、「予想よりは」「この程度であれば近くにできてもまあ大丈夫」	
4	原田委員	臭いはでる、思っていたのと違う	
5	八鍬委員	臭いについて、ごみでも下水でもない臭いで無いに近い、焼却しないため大気汚染物質の排出もないことから、市民に受け入れられやすそうである。	

# 視察後の意見内容

## 【生成物（燃料）に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	北村委員	（受入側から）確約書をとれないか。	確約書を提出いただける見込 確約書の内容 ○次の条件を満たした本市トンネルコンポスト由来の燃料の全量受入する ・単価の折合いがつく ・固形燃料の品質 ・ボイラーが運転していること
2	石川委員	確約書がもらえれば、より良い	
3	八鍬委員	確約書は必要、確約書に何が書かれ、それに対して四国中央市が何をできるのか、しっかりしないとどこも引き取ってくれない	
4	高橋委員長	産廃：コンポスト原料＝10：1 とのことでコンポスト原料の塩素濃度が高い、0.3%～1%対応可能なボイラーでどのような運用をするか	製造業者のヒアリングでは配合は塩素も意識しているが、産業廃棄物系の原料の関係からこの割合になっている。 受入側からは塩素濃度が高い場合は、混焼にて調整する旨、回答を受けている。
5	北村委員	産廃：コンポスト原料＝10：1 思ったよりコンポスト原料が少ない	

# 視察後の意見内容

## 【生成物（燃料）に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
6	北村委員	燃料の品質や規格についてユーザーの意向を聞く	現状のごみ質を提示し、アンケートした結果受入可能な回答を受けている。燃料の質に関しては常に同じごみを受け入れるわけでは無いので、ユーザーの要望を受けるのは困難である。
7	高橋副委員長	固形燃料は使うところがあることが重要であるので、当市には適している	
8	石川委員	ニーズを考えれば四国中央市の特性にあっている。さらにニーズは増える	化石燃料の価格や温室効果ガスの排出量などの観点から、化石燃料からの置き換えの可能性は高い。ただし、受入が見込まれる業者は塩素対応が可能な業者のみ。
9	村上委員	固形燃料の需要が「足りないくらいだ」と聞いて安心しました	

# 視察後の意見内容

## 【施設に関して】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	石川委員	7年間なんの問題もなく運転できていることで安心した	バイオマス資源化センターみとよは運転開始から、大きなトラブルは発生していない。2度破碎機を停止したが、これはハンマーが混入したことが原因で、施設の基本機能の部分での停止ではない。
2	八鍬委員	四国中央市で採用する場合には規模が大きくなり、稼働するホイールローダーの台数が多くなることには留意が必要と考える。なお、焼却施設に比べて機器点数が非常に少ないため、維持管理費は安価になりそうである。	



# 視察後の意見内容

## 【その他】

番号	委員名	意見内容	事務局所感
1	高橋副委員長	紙おむつのウェイトが高い	三豊市は可燃ごみの10%程度がおむつである。 将来的に割合が増えても対応できる。実験済みである。
2	北村委員	課題は土地と燃料の行方	燃料については前述のとおりである。 土地の行方については慎重に検討していく。
3	八鍬委員	RDFにおいて、食品残渣はないほうがいい。家庭用のコンポストの普及に力を入れてほしい(助成金等)	既に家庭用コンポストの補助金は設置しているため、継続した情報発信を行う。